

「会員短信 42」

「続・新しみをさがして」 竹下和宏

一月号で、一句を何人かで作り上げるという趣向を提案させていただいた。前回は、『上の五七』を一人がつくり、それに別の人が「下五」をつける試みであった。今回は、前回の逆の『下の七五』に「上五」の季語をつけるというものである。

今回も親しい俳友に協力していただいたが、会員の皆様のお知恵もいただけたら幸甚である。

◆あなたまかせといふ自由

寄鍋の（和子） 小春日や（富美） 神無月（うらら） 落葉舞ふ（八郎）

◆いい加減とは良き加減

麦踏や（八郎） 日向ぼこ（うらら）

◆美しき間合を旨と生き

紙漉の（和子） 鬼の子や（八郎） 冬銀河（富美）

◆しんと座禅をする気分

冬立つや（富美） 木下闇（うらら） 眠る山（八郎）

◆人には御座る得手不得手

秋蒔や（うらら） 煤逃の（富美）

◆世に平均値てふ魔物

心太（八郎） 万愚節（うらら）

小学生の頃から日本の言葉が大好きで、研究者になりたかった。しかし、寛政九年創業の呉服商「菱屋」の長男に生まれ、実業界に入った。六十五歳から俳句を始めて二十年余り。魅力ある言葉が満載の「歳時記」は、先達からの贈り物。これからも言葉を大切に使いながら精進していきたい。